

学校だより

小川中学校

No. 26

平成27年 2月13日

文責：校長 佐藤正則

132日、無遅刻連続記録

1月29日、遂に連続無遅刻記録がストップしました。132日です。記録は、いつかはストップする日が来ます。頭では分かっている、実際にその日を迎えると残念な気持ちでいっぱいです。

生徒会が50日を目標と掲げてから、ずっと達成できなかったことを、今年度達成したこと、しかも目標を大幅に超えたことはすごいことです。何しろ、全員が協力してはじめて出来ることです。それだけの「大記録なんだ」ということを意識させ、これからの生活の自信にさせたいと思っています。

記録は破られるためのものでもあります。現在、この記録を超えようと歩み出しました。来年度、今回の記録を超える大記録を打ち立てさせたいです。



県立Ⅰ期内定36人!

2月3、4日に行われた県立高校Ⅰ期選抜試験に54人が受験し、36人が内定、全員が期日までに入学確約書を提出しました。

Ⅰ期選抜は、「自己推薦」方式です。選抜資料は、中学校からの調査書と当日の面接（学習成果を問う内容を含む）及び論文、作文、スポーツ推薦の場合は、これらに加えて体力テストや実技テストです。今年度の県全体の平均倍率は1.5倍でしたが、市内高校の倍率は1.9倍の狭き門でしたので、7割近い内定率は、とても高いです。一人ひとりの生徒とともに、小川中学校が評価されているのだと感じています。



高校の期待を裏切らない努力を!

今回はあくまで内定です。正式には3月16日の合格発表ですが、一足早く進路が確定したことには変わりありません。ここで心配なのが、確定したことによる「心の緩み」です。

高校の校長先生方とお話をする、時々話題になるのが、Ⅰ期選抜合格者とⅡ期選抜合格者の学力差です。高校入学後にテストをすると、「Ⅰ期選抜の学業推薦で合格した生徒の方が、Ⅱ期選抜合格者より低いことが割と多い」ということです。緩みによる学習ペースのダウンが主原因ですが、もう一つ、3年間で一番学力の伸びる時期が、「Ⅱ期出願後の1ヶ月間」というのがあります。

Ⅱ期選抜は学力試験がありますから、必死で勉強しています。その差が大きいのです。

内定したことによって、心に余裕ができたはずですが、余裕を緩みにする事なく、自己推薦の意味と高校の期待を自覚し、中学校生活を仕上げたいと思います。

現在まで、進路が確定した生徒は42人で、県立高校36人、私立高校4人、福島高専2人です。残り29人が、私立高校、高専の一般選抜と県立Ⅱ期選抜に挑みます。福島高専は2月15日に、県立Ⅱ期は3月10、11日に試験が行われます。

国語上回る！ 県学力実態調査結果

昨年(2019年)の11月に行われた中学2年生を対象とした、福島県学力実態調査結果が発表になりました。その結果、国語は全国、県平均とも若干ですが上回り、数学と英語は下回りました。

学力テストとともに生活意識調査も実施しましたので、現在、学年及び教科で分析し、今後の対策を立てているところです。まとめ次第お知らせします。

新入生説明会行う

2月10日(火)午後から、来年度入学予定児童と保護者を対象に、新入生説明会を開きました。

校舎と授業見学をしてもらった後、体育館で中学校の概要や入学までの準備等について説明しました。説明後は部活動を見学してもらい、終了しました。

来年度の入学予定者は、2月10日現在、68人です。

新しい用務員さん

今年度からお勤めいただいていた阿部用務員さんが、自己都合により退職したため、2月12日から新しい用務員さんとなりました。

柴原にお住まいの高野勇二さんです。



目標達成できず！ ワンプロカード運動

2回に渡って取り組んだ「ワンプロカード運動」での募金額は62,860円となりました。この運動は、いわき市生徒会長サミットで3年にわたり進めているタイの山岳地帯の子どもたちに学校を贈る「ワンコインスクールプロジェクト」の本校版として取り組んだものです。

85,500円が募金目標でしたので、及びませんでした。役員は、何とか目標を達成しようと、いろいろ工夫して呼びかけていただけに残念です。しかし、その中で光るのは1年生です。2回目の活動では100%の達成率でした。立派です。

スマホ・携帯電話の使い方の約束を！



スマートフォンや携帯電話、パソコンなどでのインターネット接続による事件や問題が後を絶ちません。特に出会い系サイトではなく、ラインという交流サイトでのメールのやりとりから、直接会いに行って性被害にあう未成年者が目につきます。本校も例外ではありません。

振り込め詐欺で被害にあった方のほとんどは、他の人の被害のニュースを聞いても「自分は大丈夫！」と思っていたそうですが、インターネットでの被害者の親御さんも、多くは「自分の子どもは大丈夫だ！」と思っていたそうです。

一丁前のことを言っている、やっぱり子どもです。便利で生活必需品になりつつあるものだから、「絶対に持たせないでほしい」とは言いません。しかし、持たせる以上はしっかりと子どもと「約束事を決め、出来なければ与えない」という姿勢でお願いします。